



世界天文年 2009 「星空ブックフェア」紹介 「宙読み（そらよみ）書房」へようこそ！

高田 裕行

〈国立天文台天文情報センター出版係/世界天文年 2009 企画委員〉

●概要

世界天文年 2009 の国内主催イベントの一つが「星空ブックフェア 2009」です。これは、全国の書店に世界天文年の専門コーナーを設けていただき、良質の天文書籍を読者に提供することを目的とした企画で、全国の推定約 1,000 店舗で開催されました。また、フェアの進行とともに、商業出版の枠を超えて、全国の公共図書館や学校図書館、さらに図書館関係の各種団体や、出版・図書館関係者・民間有志で活動する科学書籍の研究会など、さまざまな方面からの利用参加や情報交換も相次ぎ、天文・宇宙の書籍を通じて、広く出版界・図書館界・教育界と連携を図るきっかけを作ることができました。



書店開催の一例（アカデミアイーアスつくば店）。

●星空ブックフェアの目的

星空ブックフェアは、渡部潤一（国立天文台天文情報センター長）、高田裕行（国立天文台天文情報センター出版係）が担当しました。

当フェアの新しい試みと狙いは、著者や出版社からフェア参加希望書籍を申請していただき、良質の天文書籍を世界天文年日本委員会が必要に応じて日本天文学会（教育委員会）の助言を得て公認することで、読者や書店に対して一定の良書情報を提供するとともに、各書籍に共通のロゴマークや書籍帯を掲示してフェアの一体感と盛り上げを図り、全国の書店の天文・宇宙の棚を活性化するための“呼び水”となることを目指すものでした。

●公認書籍

公認書籍の申請募集は、学会・出版社への告知などを通じて 2008 年 4 月からスタートし、2009 年 9 月 30 日に終了しました（募集期間は 1 年 6 か月）。公認書籍数は 561 冊です。公認の基準は、悪書を除外するためのネガティブチェックと発行年の古い書籍の見送りで、“呼び水”として間口を広くとるための緩やかなものです。当初は、いわゆるトンデモ本の大量申請の危惧もありましたが、実際はほぼ皆無で、公認申請を見送ったのは、発行年基準を満たさなかったもの 26 冊、内容が

天文・宇宙ジャンルから逸脱していたもの18冊などでした。

●書店ブックフェアの推移

書籍取次ぎ大手の(株)トーハンの協力を得て、2008年12月から試行的にプレフェアを実施(全国78店舗)し、フェア書籍帯などのデザイン改良などを経て、2009年4月より年末まで本フェアを実施しました。本フェア開催時の店舗数は394で



図書館開催の一例(山口県立図書館)。



公式ポスター。

した。さらに6月から書籍取次ぎ大手の日販(株)の参加協力も得て、実施店舗数は7月1日の段階で全国860となりました。

プレフェアや本フェア開催時において、トーハン、日販(日本の書籍流通に占める両社のシェアは合わせて推定約7割)から、全国の書店(推定約15,000店舗)の大部分に向けて、ほぼ公認書籍リスト付きでフェア書籍注文表が送付されました。公認リストから、どの本を販売するかは取次ぎと書店の判断に委ね、最終的に、取次ぎのパッケージ流通(共通書籍帯のついたもの)によるフェアに参加した店舗数が860です。これが、書店名が把握できた店舗数です。加えて、フェアの進行途上、とくに日食前の7月に入って、リスト外の書店で独自の星空ブックフェアを行うところが続出しました。これは、①事前に注文表の送付によって当フェアの告知が全国書店に行き渡っていたこと、②公認書籍リストなどを参照して独自の銘柄選定を行った大手チェーン書店や老舗書店も多かったこと、③日食という一大天文イベントに向けて商機が熟していたこと、などの理由によるものと思われます。今後、この成果をより系統的に応用適用することで、「呼び水効果」をさらに高めることが可能と考えられます。

●図書館界の反応

当初は、上記の書店棚の活性化を目的にスター



公認書籍帯。

トした当フェアでしたが、進行とともに、全国の公共図書館や学校図書館でさまざまな独自の星空ブックフェアが開かれ、その報告が寄せられるようになりました。また、図書館関連の各種団体や、出版・図書館関係者・民間有志で活動する科学書籍の研究会などからも、フェアへの参加希望や相談、公認書籍情報への詳細な問い合わせが増えました。

読者の利便性の向上はもちろんのこと、この予想外の図書館界の強い要望に応えるため、当初、公認書籍リストの簡単な公開にとどまっていたwebサービスの大幅な内容拡張・機能増強を行い、これら多様なニーズに対応し、一層の利用促進を図るために、星空ブックフェアオンライン「宙読み（そらよみ）書房」をオープンしました。書店と図書館を兼ねたイメージでデザインしたwebサービス内で、仮想本棚から公認書籍情報を取り出したり、フェア用の素材をダウンロードしたり、さまざまな図書館や書店のフェア情報や報告などを読むことができます。また、著者のコメントを紹介したり、公認書籍からあるテーマを選んで、オリジナルの“宙読みフェア”の棚を作ることも試みました。

<http://www.astronomy2009.jp/ja/bookfair/index.html>

●今後の展望

手探りで始めた星空ブックフェアでしたが、特定の学術コミュニティが、出版界や図書館界と広範に連携しながら、書籍を通じて、多くの読者と接点をもつ試みは、さほど前例があるとも思われず、さまざまな発見がありました。世界天文年2009の終了とともに、今回の試みは一区切りとなりますが、この「宙読み（そらよみ）システム」は、



「宙読み（そらよみ）書房」のトップページ。

まだようやく歩き始めたばかりで、未着手の企画も数多くあります。今後、継続的にメンテナンスをしながら、より実験的な拡張も含めて、内容を充実させていくことを検討しています。

★最後に、書籍申請・提供にご協力いただいた学会員の各著者のみなさんに、この場を借りて御礼申し上げます。おそらく、いずれまた申請が再開された暁には（笑）、引き続きご執筆に励まれ、ご申請いただけることを期待しております。さらに、公認書籍のコンテンツ作り（宙読みフェア）でもご協力をお願いするともあると思います。そのときはよろしく願いいたします。

●制作/世界天文年2009日本委員会

●制作担当/渡部潤一、高田裕行、久保麻紀
(国立天文台天文情報センター図書出版係)+国立天文台世界天文年2009推進室